

平成 30 年度 学校評価・学校関係者評価実施結果報告書

岡山県理容美容専門学校

1. 教育目標

本校は、実践的な理容・美容の職業教育を行い、これからの社会のニーズに対応できる優れた理容師・美容師を養成する理容美容専門学校である。

そのためには、一人一人の学生に基礎技術から専門的な技術・技能・知識の修得が出来るよう教育環境を整え、その中で理容・美容業の厳しさや楽しさなども体得させながら、理容・美容業に誇りを持った学生の育成に努めなければならない。そして、何より、理容・美容業がお客様に満足してもらえ技術とサービスを提供する業であることを認識させなければならない。

そこで、本校では従来から次の教育目標を掲げている。

- ・誠意----すべてのお客様に対して、真心を持って接することができるよう、日常において接客の心構えを持たせる。
- ・熱意----いかなる時でもお客様が満足できる結果が得られるよう、一生懸命頑張れる精神力を養う。
- ・創意----お客様に満足してもらえ必要な知識、技術、快適な施設や設備など、常日頃からよりよいものを創り出そうとする意識を持たせる。

これらの教育目標は、在学中はもとより理容・美容業に従事する上で、生涯持ち続けてほしいと願っている。

2. 本年度の重点目標と計画

① 国家試験合格体制の強化

理容科は、本年度も全員合格という 100%の目標を達成した。本校の理容科受験者数が少ないとはいえ、毎年連続で全員合格を達成することは高い評価に値する。

また、美容科においても、実技試験 100%、筆記試験 98.1%という合格率を達成したが、もう一息で全員合格という快挙を失した感は拭えない。なお一層の効果ある技術指導と筆記試験対策を行っていく。

② 理容・美容実践教育の強化

理容・美容業界と連携し、派遣講師によるヘアカット、着付、アップスタイル、カラーリング等、技術指導の充実を図る。とりわけ本年度は、本校理容科卒業生の派遣講師が全国理容競技大会(レディースカット・ヘアスタイル部門)において優勝した。岡山県勢としては 50 年振りの偉業で

ある。このような全国トップレベルの技術指導を通して、総合技術の実践教育を行っていく。

また、理容所・美容所でのインターンシップを引き続き実施し、現場でのサロンワークを学んでいく。

③ 全国学生技術大会(岡山大会)の支援強化

平成30年度11月の全国学生技術大会(岡山大会・ジップアリーナ)に向けて、その競技種目でのレベルアップに、あらゆる面から支援を行った。結果として、中国地区予選を通過し全国大会に出場した理容科美容科14名のうち理容科1名が、クシカハック部門で優秀賞を受賞した。

来年度に向けても、学生には技術的支援、用品等の物的支援などを後援会と協力して行っていく。

④ 学生支援制度の充実

自宅が遠隔地にあり、本校までの通学が著しく困難な為、アパート等の賃貸住宅に入居する学生に対して、その住宅費の一部を支援する住宅費支援制度を導入し、学生の経済的負担の軽減に寄与した。さらに、18歳人口の減少に伴い本校の募集活動の広域化が必然的に生じてくる。よって、ますます住宅支援の該当学生が増えると思込まれる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

番号	評価項目	評価
1-1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1 0
1-2	学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1 0
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1 0
1-4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

本校の教育目標は各教室に掲示するとともに、学生便覧で詳細に説明を記載している。

また、担任からは創立記念日等で教育目標や理念、目的、人材などについて、本校の目指す理容師像・美容師像を説明し学生の理解を求めてきた。

さらに、校章とそのコンセプトを学生便覧に載せ「晴れの国 岡山」からヘアファッション界への発信源となるビジョンを描き学生との意識の共有化を図ってきた。従って、学生・保護者への理解と周知度は、これらの取り組みによりますますの成果を挙げたものと思われる。

② 今後の改善方策

今後ともあらゆる機会を捉えて、保護者等には教育理念・目標・人材育成等の理解や周知を行っていく。

(2) 学校運営

番号	評価項目	評価
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1 0
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1 0
2-3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか有効に機能しているか	④ 3 2 1 0
2-4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	④ 3 2 1 0
2-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1 0
2-6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1 0
2-7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1 0
2-8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

本年度における平成30年度の学校運営方針は、前年度末の学園理事会において運営方針と事業計画が決定された。その後、職員会議において教職員に示されている。

また、諸規定(就業規則・給与規定等)も時代に適応した内容で整えられてきた。

教務における意思決定システムでは、教務規則に基づき学年会議、職員会議等を実施し学生指導等を行っているが、なお一層の共通理解と情報共有が求められる。

② 今後の改善方策

地域社会等に対するコンプライアンスとして、通学時における交通事故や近隣施設での無断駐車、あるいは自転車通学のマナーなど、今後も交通法規の遵守に力を入れていく。

また、地域住民との挨拶、近隣清掃、子どもや高齢者へのいたわりなど、本校を取り囲む地域社会との共生及び社会の一員としての自覚を持たせていく。

(3) 教育活動

番号	評価項目	評価
3-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1 0
3-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1 0
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1 0
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1 0
3-5	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置付けられているか	④ 3 2 1 0
3-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1 0
3-7	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1 0

3-8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1 0
3-9	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1 0
3-10	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1 0
3-11	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1 0
3-12	職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

実践的職業教育として、理容美容業界のトップレベルの講師による実習指導を通して、優れた技術や専門知識の修得を行った。さらに、理容所・美容所でのインターンシップでは、接客、言葉使い、身だしなみ、器具の衛生管理などサロンワークの実践教育を実施した。

なお、理容師法施行規則及び美容師法施行規則の改正に伴い、理容師、美容師、両方の資格取得が容易になった。これにより本校は他校に先駆けて平成30年4月から理容修得者課程、美容修得者課程を本校の通信課程に設置したので、さらにスキルアップした理容師・美容師の育成が今後の課題となると思われる。

② 今後の改善方策

顧客ニーズの多様化により、実習教員は時代に応じた様々な技術や・専門知識の修得が必要である。よって理容美容業界との連携を深め、業界講師との研修を通じて指導力向上に努めることが求められる。また、日本理容美容教育センター、業界団体などの各種研修会に参加し資質向上に努めなければならない。

(4) 学修成果

番号	評価項目	評価
4-1	就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1 0
4-2	資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1 0
4-3	退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1 0
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

平成30年度3月卒業(昼間課程)の国家試験合格率は理容科が4年連続で100%となった。美容科は国家試験合格率が98.1%で高い資格取得率であった。また、求人数も例年通り大変多く就職希望者のほぼ全員が就職を達成し良好である。

② 今後の改善方策

退学率の低減については不十分と思われる。初志貫徹を貫き通すよう、学生の悩みや不安

の解消に努めモチベーションの維持に努めてほしい。また、同窓会活動は期別代表者を中心として活発に行い卒業生たちの情報取得や会員の交流を推進することが求められる。

(5) 学生支援

番号	評価項目	評価
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1 0
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1 0
5-6	学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1 0
5-7	保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1 0
5-8	卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1 0
5-9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

平成 30 年度の学生支援では、新たに「住宅費支援制度」を設けた。これは、自宅が遠隔地にあり通学が著しく困難な学生が、賃貸住宅等に入居した場合には、その住宅費の一部を補助する制度である。また、全国的に理容科を設置している養成施設が少ないことにより他県から入学を希望する場合の支援活動でもある。

今後も学生アンケートや担任面談を通して、学生からの意見・要望を積極的に聞き、学生が健康で安心して学校生活を過ごせると同時に理容・美容の優れた技術と専門知識の習得に専念できる、支援体制を推し進めていく。

② 今後の改善方策

前期 4 月には定期健康診断・結核検診を行っているが後期は実施していない。

特に 2 年生が受験する国家試験(2月3月)はインフルエンザなどの流行時である。教員は一人一人の体調管理に留意するとともに、国試受験時の不安や悩みなど精神面の健康管理にも配慮するよう取り組んでほしい。

(6) 教育環境

番号	評価項目	評価
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1 0
6-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1 0
6-3	防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

教育設備においては、毎年後援会支援のもと各教室等に最新のプロジェクターやスクリーンを設置し、技術映像や資料掲示などができるよう環境整備の充実を行っている。

実践教育の一環として行うインターンシップでは、1学年が12月と3月に5日間、2学年で8月に5日間実施し、理容所美容所でのサロンワークを体験することにより、職業意識・就労意識の自覚を身に付けさせている。

② 今後の改善方策

昨年は7月の西日本豪雨により岡山県でも大災害に見舞われた。想定外の自然災害の発生が当たり前の状況になってきている。本校学生にはしっかりとした防災教育や非難訓練を実施し防災意識を高めてほしい。また、教職員の危機管理及び緊急連絡体制を徹底するとともに、万が一に備え情報収集力および即時対応力の強化が求められる。

(7) 学生の受入れ募集

番号	評価項目	評価
7-1	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	④ 3 2 1 0
7-2	学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1 0
7-3	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	④ 3 2 1 0
7-4	学生納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

平成31年度学生募集要項では、入試形態の特徴や手続きについて分かりやすく記載した。また、2年間に必要な学納金を誤解や虚偽のないよう詳細に記載している。さらに、募集パンフレットでは各学科で学べる内容の説明や学校生活、各種検定、国家資格取得について記載し情報提供を行っている。

今後の課題としては、就職状況や新たに設置した理容修得者課程・美容修得者課程の説明などを加える必要がある。

なお、県内高等学校進路課に年3回程度訪問して、本校の現状や在校生の状況を報告するとともに、平成31年度募集要項を配布した。県外高校生に対する活動では、過去に入学したことのある高等学校及び近県高等学校を訪問し情報提供を行っている。

② 今後の改善方策

次年度の情報提供では、県別就職状況や昼間課程を卒業後、理容修得者課程・美容修得者課程の説明を記載し情報提供の充実を図ること。また、募集活動では高等学校内で実施する体験型説明会や入学まもない高校1年生に対しての分野型説明会に積極的に参加し、進路決定に役立つ情報提供に努める必要がある。

(8) 財務

番号	評価項目	評価
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1 0
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1 0
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1 0
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

本年度も本校の学園会計を指導する指吸会計センターから、本年度の学園会計は健全であり財政基盤は安定していることの報告を受けた。また、学園監事により学園・学校運営や資金収支においても適正であることの監査報告を受けている。なお、これからもより一層の透明性と健全経営を図っていく所存である。

② 今後の改善方策

少子高齢化により入学者数の減少が見込まれる。すでに近県において募集停止している養成施設もあるようだ。今後とも退学者休学者を低減し授業料収入を中心とする財政基盤の安定と予算の厳格化に努めていく。

(9) 法令の遵守

番号	評価項目	評価
9-1	法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1 0
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1 0
9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1 0
9-4	自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

① 課題

例年通り、理容師養成施設指定規則・美容師養成施設指定規則及び専修学校法に基づき適正に運営を行っている。個人情報保護対策ではセキュリティソフトの導入や書類管理の徹底などを行っている。学生アンケートを前期・後期に2回実施し、各分類項目の分析を行い問題点の解決をはかった。また、教職員による自己評価の結果に基づいて、学校関係者評価委員会において、客観的評価を得て学校運営の改善を行っている。

② 今後の改善方策

次年度においても、関連する業界団体と連携協力し、自己評価での問題点や学校関係者評価での提言を受け入れて、よりよい学校づくりに励んでいきたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

番号	評価項目	評価
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1 0
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1 0

おおいに肯定的-4 やや肯定的-3 やや否定的-2 おおいに否定的-1 わからない-0

③ 特記事項

本校では、物理的・時間的に許す限り社会貢献・地域貢献や他の教育機関との連携授業並びに施設使用の提供を行っている。

- ・ 豪雨災害時における緊急避難場所-----岡山市大元学区連合町内会
- ・ チャレンジワーク！お仕事体験教室-----岡山市立福田公民館
- ・ パラ×コレ(障がい者のファッションショー)-----パラコレ実行委員会
- ・ うらじゃ祭り(うらじゃ踊り参加とメイクボランティア)---うらじゃ実行委員会

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

平成30年度の学校運営について、在学者数並びに入学者数は昨年同様順調であり学校運営の安定的基盤を築いている。特に、本年度の募集活動においては美容科定員充足がいち早く達成できた。国家試験では、理容科は全員合格の100%を達成し、美容科も実技試験においては100%であった。学生活動では、学園祭、うらじゃ祭り、パラ×コレなど学生活動も積極的に行われ社会的好評を得た。校外コンクールでは、全国学生技術大会(岡山大会・ジップアリーナ)で、理容科1名が、クシカバック部門で優秀賞を受賞し、本校の技術力の高さを見せてくれた。

最後に忘れてならないのは7月に岡山県を襲った西日本豪雨災害である。本校においても被災者が出たが、幸いにも人的被害ではなかった。罹災した在校生及び入学予定者には一定期間の授業料等の免除を実施した。さらに日本理容美容教育センターと協力して実習用具や教科書の無料配布を行った。6-3で述べているが本校の防災に対する体制の強化を次年度以降も行っていく。